

仕事と家庭の両立に向けた調査結果報告書

1. 目的

内閣府の家族や地域における子育てに関する意識調査の中で、20～49歳の有配偶者を対象に聞いた「子どもを持つ場合の条件」で最も高い回答を得たのは「働きながら子育てができる職場環境であること」であり、特に女性の回答が大きかった。また、新庄市まちづくり市民アンケートにおいても、「子育てしながら働くことができる」という項目のニーズ度の順位が上昇している。

多様な働き方が選択でき、健康で豊かな生活のための時間を確保し、出生率向上を図るためには、仕事と家庭の両立は重要な要素となってくることから、家庭・仕事・保育の3つの視点から、現状と課題を分析し、今後の取組の企画立案、改善の基礎資料として活用するものである。

2. 調査方法

子育て・保育・教育分野の関係者への聴き取りによる定性調査を実施する。

3. 調査期間

平成27年8月3日～20日まで

4. 質問内容（現状、不安や不満、解決策）

<育児や家事などの家庭における女性の負担軽減>

- ・男性の家事や育児の参加
- ・祖父母等からの協力
- ・その他

<健康で豊かな生活のための時間の確保、多様な生き方、働き方の選択>

- ・仕事と家庭の両立に関する職場の理解
- ・産前産後の休職等に関する職場の対応
- ・家庭との両立ができる職場環境（勤務時間や勤務内容等）
- ・出産・育児後の再就職について
- ・家庭のための休みが取りやすい環境か
- ・その他

<両立を支援する保育サービスの充実>

- ・0～3歳未満の乳幼児について
- ・3歳以上の就学前児童について
- ・就学児童について
- ・その他

<その他>

5. 調査結果（聴き取り内容）

※個人や団体が特定される情報等は除いています。

<育児や家事などの家庭における女性の負担軽減>

○男性の家事や育児の参加について

- ・男性の育児や家事の参加については、協力している家庭と協力が無い家庭は両極端となっている。
- ・お遊戯会などのイベントには、夫婦で出席しているし、昔に比べたらお父さんも育児等へ協力的になってきているように感じる。
- ・お母さんが仕事をしている中で、役割分担をお母さんから提案している家庭が多い。
- ・夫が夜遅くまで仕事をしていたりや土日仕事をしていると育児や家事は妻の負担となっている。介護、飲食業、サービス業などを担当している人が多い。
- ・お母さんたちは育児サークルなど様々な実施しているかと思うが、お父さんのつながりは希薄なような気がする。

○祖父母等からの協力

- ・早い時間での迎えは祖父母が多いが、祖父母も仕事をしている家庭が多い。
- ・祖父母は育児に積極的に関わってくれるが、育児についての認識のズレが生じているケースもある。育児の感覚の違いの相談を良く聞く。
- ・三世同居をしているところでは、夫婦共働きでも、祖父母が家事を行ってくれている。特に、祖父母の仕事が農業である家庭は、送り迎えなどにも対応しやすい。

○その他

- ・仕事をしているお母さんにとって、家に帰ってきて、そこから家事や育児を行うのはすごくストレスになっているようだ。
- ・転勤などで新庄に来たという家庭は横のつながりを重視している。

<健康で豊かな生活のための時間の確保、多様な生き方、働き方の選択>

○仕事と家庭の両立に関する職場の理解

- ・子どもに熱がでたり、急に保護者に対応を求める場合があるが、保護者は職場に気を使っているようで、周りの職員に負担をかけてしまうことから急に休みを取りにくい雰囲気があるようだ。
- ・子どもが熱を出したりした時に、職場に連絡しても取り次いでもらえない時もある。仕事によっては、なかなかすぐに抜けられないようだ。
- ・休み易い職場かは業界による部分が多いのではないだろうか。代替りのきかない部署にいる人などは対応が難しい。

○家庭との両立ができる職場環境（勤務時間や勤務内容等）

- ・残業も当日または、前日くらいにならないと分からない人が多く、突発的な延長保育を希望される方が多い。
- ・育児や家事もあることから土日に仕事が無く、夕方に勤務が終わるようなパートタイムでの勤務を希望している人もいる。
- ・パートタイム労働者では、妊娠中のつわりが酷い時は、自主退職するなど不安定な雇用状態であるとの相談を聞く。
- ・休みは、早めに職場に伝えていると取りやすいようだ。しかし、急な休みは職場でも対応しづらいようである。

○出産・育児後の再就職について

- ・パートタイム労働者などは出産や育児が必要となったら仕事を辞め、その後、育児が落ち着けば復帰したいと考えているようだ。

○その他

- ・子育てをメインで行いたいから、パートタイムという選択を行っている人もいる。
- ・多様なライフスタイルが選択できるような環境が一番だと思う。職場と家庭のバランスを変に固定化する必要はない。

<両立を支援する保育サービスの充実>

○0～3歳未満の乳幼児について

- ・0～1歳児の保育ニーズはかなり高い。

○3歳以上の就学前児童について

- ・少子化のためか、家の近所に一緒に遊べる同年代の子どもがいない。家の中だけでなく、外でコミュニケーションをとることを覚えて欲しいという思いがあるようだ。

○就学児童について

- ・学童保育などの需要は高い。学力を上げる視点での、塾機能のようなものも付いた学童保育があればと思う。
- ・放課後児童クラブの利用者も増えている。最近では、一人で帰って、家で一人いてもらうのも不安のあるようだ。

○その他

- ・保護者からのニーズとしては、土曜日などで、仕事以外の冠婚葬祭などの理由でも保育をして欲しいという声を聞く。
- ・妊娠中や産後のケアに対して悩んでいる人が多い。

- ・夫が転勤族で新庄市に来て、頼れる人がいないような人は、一時預かりなどを希望している人が多い。
- ・病児・体調不良児の保育もニーズとしては高いが、対応は難しい。看護師や隔離スペースが必要であることや採算が取り難いなど、ハードルが高い。

<その他>

○保育士の確保

- ・保育士が足りないという現状がある。そうすると、育児の希望があっても受入れできない。
- ・賃金が低い、経験を重ねても昇給しづらいなどの処遇が悪いことから、保育士が集まらない。国の制度の改革が必要だ。

○子どもの遊び場

- ・子どもの遊び場としては、東根や天童まで行っているようだ。
- ・現在のわらすこ広場では、利用制限があることから、年長組や小学校低学年の子どもたちの遊び場としてはカバー出来ていない。
- ・冬の子どもの遊び場としては、新庄のスキー場に行って遊んでいる。

○子育て支援全般について

- ・子育て支援が今では、親中心の支援になっているように思われる。子どものことを第1に考えた際に、出来るだけ家庭の時間を増やしてあげたほうがいいのではないだろうか。
- ・子育てのコツなどについてのセミナーなどもあり、県が主体で実施はしているが、思うように参加者が集まらない。子育てはそこまで大変ではなく、楽しいという意識啓発が大切である。
- ・家庭と仕事の両立を支えるための、補助的な役割が保育であったが、近年は保育のウェイトがかなり高まっている。国の制度も保育サービスの充実に特化しているが、家庭での役割や職場のあり方などをもう一度考えなければならないのではないだろうか。

6. 調査結果から見えてきた現状と課題

「育児や家事などの家庭における女性の負担軽減」に関して、男性の育児・家事参加について、ある程度の役割分担は進んでいると思われるが、男性の仕事の業種等によっては、家庭の負担が母親になっているようだ。

三世代同居世帯が多い世帯では、祖父母からの育児や家事に対する協力があるため、女性の負担軽減に繋がっている。しかし、中には、親と祖父母の育児に対する認識の違いがあるとのことだ。

「健康で豊かな生活のための時間の確保、多様な生き方、働き方の選択」に関して、職場では、急に休みが取りづらい雰囲気があるため、急な発熱や体調不良などで、親が対応しなければならないときは、仕事を抜けづらいようだといった話を様々なところで耳にした。さらに、残業などがあり、延長保育のニーズが増えているとのことだった。

出産後、早くに職場復帰したいという意識があるが、復職に不安があるとの声もあった。

「両立を支援する保育サービスの充実」に関して、0～1 歳児の保育ニーズが高いが、受入れ等の対応が難しい現状だとのことだった。

その他、保育士が足りなく、保育士確保に向けた待遇の改善や確保策が必要であるとの意見があった。